

岡本侑也さん(チェロ)

哀愁のドヴォルザーク

指揮 小林研一郎 都響 x アプリコ

2018年10月6日(土) 15:00
アプリコ大ホール

Aprico 20th Anniversary

都響 x アプリコ

小林研一郎

哀愁のドヴォルザーク

指揮 小林研一郎

チェロ 岡本侑也

管弦楽 東京都交響楽団

2018年 10月6日(土) 15:00開演 (14:15開場)

大田区民ホール アプリコ大ホール

料金 全席指定 ¥4,500円 A席 ¥3,500円
シニア(75歳以上) ¥3,150円 A席 ¥2,450円
学生(学生証提示) ¥2,700円 A席 ¥2,000円
E席 ¥2,000円

ドヴォルザーク

- チェロ協奏曲 口短調 作品104 (独奏:岡本侑也)
- 交響曲第8番 ト長調 作品88

チケット発売日 2018年(予定)3月1日(土) 10:00発売開始

チケット申込電話 03-3750-1555

販売期間15日間販売

申込受付時間

電話予約受付時間

チケット申込サイト <http://www.apricoco-bunko.org/>

管弦楽ガイド 0570-056-0571 (ナビダイヤル)

都響WEBチケット <http://www.tokyo-syo.or.jp/>



出演 チェロ: 岡本侑也
管弦楽: 東京都交響楽団
指揮: 小林研一郎

◆プログラム

ドヴォルザーク:

チェロ協奏曲 口短調 作品104 (独奏:岡本侑也)
交響曲第8番 ト長調 作品88

ソリスト アンコール曲:

ジョヴァンニ・ソツリマ: ラメンタチオ

この日岡本さんが東京都交響楽団さんと共演したのは、2017年エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナルで弾き、見事第2位及びイザイ賞を受賞したドヴォルザークのチェロ協奏曲口短調作品104。それを生で聴ける貴重な機会。

岡本さんの演奏にはオーケストラとの調和、一体感を感じます。岡本さんは、演奏中何度も指揮者を覗き込み、周りの奏者の音に耳を澄ませ、息を合わせていました。

アンコールでは、驚きのボーカルが聴けました♪

民族調の物悲しい旋律をチェロで弾きながら、うん？この声は岡本さんの声？チェロの音色は楽器の中で一番人間の声に違いとか。チェロの音色と岡本さんの声が溶け合っていました。

Q&A

2017年、エリザベート王妃国際音楽コンクールのチェロ部門第2位およびイザイ賞を受賞。その後も第16回(2017年)齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞、第28回(2017年度)出光音楽賞受賞と成果を残し続けている。

「最近楽器を変えたので、慣れるのが大変。」と語っていた岡本さん。また、右手の奏法も更に掘り下げて、色々な音色を作ることができるように試行錯誤している。」とも。様々なことに挑戦している岡本さんに、日々どんなことを考えているのか聞いてみました。

Q1. 今日演奏されたのは、エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナルで演奏し、2位を受賞された曲であり、これまでに何回も演奏されたドヴォルザークのチェロ協奏曲短調作品104。ただ、何回も弾かれたとは言え、弾く国も違えば、オーケストラもホールも違う。聴衆も違う。今回は使用した楽器も違う。そんな中で、今回新たな発見はありましたでしょうか。今回は、どんな演奏をしようと思って臨まれたのでしょうか。

A1. もちろん楽器や場所などの環境は、本番毎に異なりますので、特に意識はしておりませんでした。それよりも、音楽そのもののイメージを、以前より詳細に具体的に持って、それぞれのフレーズのキャラクターを際立たせたいと思っておりました。

また小林研一郎先生のスケールの大きく巨大な音楽空間の中で、楽曲をよりたっぷりと味わいながら演奏ができたかなと思います。



撮影：(公財)大田区文化振興協会

Q2. チェロを演奏する際には、ソロ、室内楽、協奏曲とあると思います。協奏曲にはソロの部分もあり、室内楽の部分もあり、オーケストラのスケールもあり、聴き手にとっても聴きどころ満載だと思います。岡本さんが協奏曲を演奏される際、一番大切にされているのは何ですか。

A2. 協奏曲の場合は、指揮者とオーケストラの皆様との調和です。皆様と、その曲の素晴らしさを共有できた瞬間に、大きな喜びを感じます。



撮影：(公財)大田区文化振興協会



撮影：(公財)大田区文化振興協会

Q3. 昨年夏にミュンヘン音楽演劇大学学部を首席で卒業され、10月から大学院に在学中とのことです、大学院では具体的に何を目標に置いていらっしゃいますか。大学院に進まれてもうすぐ1年になりますが、ご自分の演奏がどのように変わったと思われますか。

A3. 大学院に進学し新しい先生に師事してから、特に右手の奏法の基礎的な見直しをしています。

自分が左利きということもあり、なかなか身につくまでに時間のかかることなのですが、それを自然に駆使することができるようになれば、より柔軟に、色々な歌い回しが実現すると思いますので、表現の幅が広がるように、日々地道に取り組んでいます。

Q4. ご自分の演奏の個性、特徴はなんだと思われますか。他のチェリストと差別化するとすると、どんな点にあると思われますか。

A4. 他の方と比べてどうか、は自分では残念ながら分かりません。自分の目指す演奏に向かって、努力あるのみだと思います。



(岡本さんが通うミュンヘン音楽演劇大学 インターネットより)

Q5. 以前は、故齋藤秀雄先生が使われていた楽器を使っていたらっしゃいましたが、この春から、サントリー芸術財団から貸与された楽器を弾いていらっしゃるとのこと。なかなかすぐには慣れないとおっしゃっていましたが、ある記事で「楽器から学ぶ事がとても多い。」ともおっしゃっていました。楽器から学ぶこととはどんなことでしょうか。楽器が変わって、ご自分の演奏にどのような変化を与えていると思われますか。

A5. 楽器にはそれぞれのキャラクターや鳴り方の違いがあります。楽器が変わりますと、その新しい楽器に最適な音の出し方を見つけて、自分が対応していく必要があると思います。

その過程を通して、色々な音の出し方、奏法、音色の可能性を勉強することができます。逆に、楽器が自分の音楽性を補ってくれることも多々起こります。

今まで色々な楽器を弾かせていただいて、音の出し方、身体の使い方などのバリエーションが少しずつ増えてきたと思いますし、自分の理想とする音色と演奏そのものの方向性が見えてきたような気がします。



撮影：(公財)大田区文化振興協会

Q6. いつも穏やかで笑顔の岡本さんですが、壁にぶつかったり、息抜きや気分転換が必要な時はありませんか。そんな時は何をされますか。

A6. 個人的には、本番毎に新しい壁にぶつかっているような感覚です。過去に弾いたことのある同じ曲だったとしても、毎回違うコンディションで臨むことになりますので、ステージ一つ一つが新しいチャレンジだと思っていますし、そこにやりがいを感じて続けているのだと思います。

気分転換には、大好きなサッカーを観戦したり、一人で家にいる時は、漫才とかお笑いを見るのが好きです。しんどいことが続いた時は、一旦笑い飛ばしてから、切り替えてまた次に進みます。

Q7. 財団奨学生のみなさんに同じ質問をしています。一番幸せだなと思う時はどんな時ですか。自分を一番元気づけてくれるモノ(人、食べ物等)は何ですか。

A7. 幸せだなと思う時は、演奏をしていたり、または演奏を聴いていて、奏者とお客様との心が繋がっている、と感じられる時です。胸がいっぱいになります。

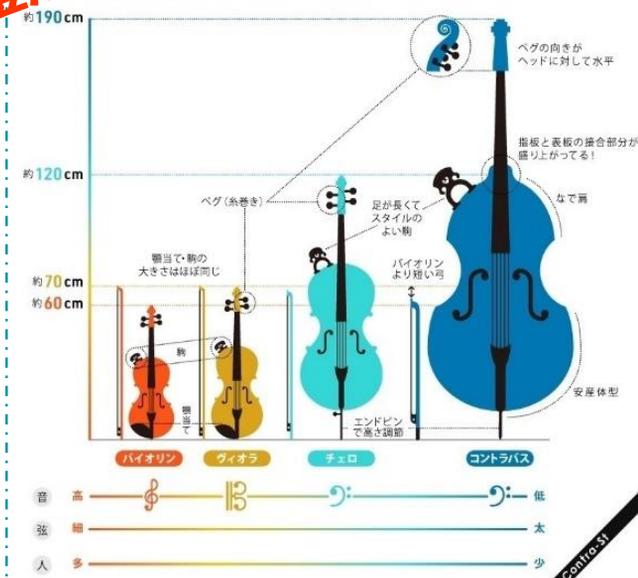
元気づけてくれるモノは、日本食です。もちろんヨーロッパにも美味しく魅力的な食べ物がありますが、和食ほど体に染みて、健康的で美味しいものは無いと思います。和菓子も大好きです。

岡本さんの回答を読むと、何事も対しても決してネガティブにとらえず、前向きな姿勢を感じます。「楽器が変わって大変です。」と言いながらもいつもの笑顔。色々な楽器を弾くことによって、自分の理想とする音色と演奏そのものの方向性が見えてきたとも。また、右手の奏法を振り下げることにより表現の幅が広がるという。新しい挑戦を楽しんでいるかのよう。

常に更なる高みを目指し、いろいろな課題に挑戦し、地道な努力を続けている。何事もポジティブにとらえ、楽しむ。常に進化している。岡本さんの更なる進化を追っていきたい。

漫才やお笑いが好きで、和菓子が好きという意外な一面も。また楽器にはキャラクターがあるとも。岡本さん、とても興味深いご回答、ありがとうございました♪

豆知識



4つの弦楽器、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス。比較してみるとこれまで知らなかった事がたくさんありました。

チェロとコントラバスの弓はボディが大きいので、弓も長いだろうと思いましたが、ヴァイオリンの弓より短いそうです！

コントラバスの形は少しなで肩。また、ヘッドにある弦を巻く糸巻き(ペグ)は、コントラバスだけヘッドに向かって水平になっており前から見えません。

演奏会に行く機会があったら確認してみてください♪